

市民の声

～行方市によせる想い～



高野 地加男
(繁昌)

初の市議会選挙も終り、新たな陣容で市政がスタートされました。始めに、お祝いとお慶待を申し上げます。

今回、定数が52名から24名になりました。国のリードとはいえ、市財

政再建の大きな一歩を腕より始められたことは評価できることと思えます。10数年前、町より班長の役職をいただき、町政に協力をさせていただけました。その折、最初の会合でびつくりしたことがあります。会場に行くなり大きなケーキをいただき、カバンをいただき、まだ何もしていないのに一泊旅行の話が出、最後には年間の報酬の話もありました。ありがたいなと思つ反面、これで財

政は大丈夫なのかなと思いました。現在、数百億の借金があると聞いております。第二、第三の夕張にならないためにも、行政当局には厳しい運営を求めるのは当然であります。私たちが市民もボランティア精神で、市当局と一体となった財政再建の取り組みが必要ではないでしょうか。



大久保 恵美子
(富田)

梅雨に入ったというのに、雨がほとんど降らず夏日が続く暑さの中、葉タバコ農家に嫁ぎ、早30年が過ぎようとしています。農作業も多忙と

なり、収穫の時期を迎え、毎日汗しで働いています。私が住んでいる富田地区周辺をふと見渡すと、凹凸して路面の悪い道路や、道幅が狭く、車1台がやっと通れるような路地が多く見受けられます。仮に、もし火災などが発生した場合、緊急車両など入れるかと、ふと不安になります。住宅事情もあ

り、道幅を拡張するのも難しいところです。

行方市は3町が合併したものの、財政が赤字を抱えているようです。しかし、今一度、行政の目で現場に向き、道路整備を願い、子供たちから高齢者まで、安全安心して通れるようにして欲しいと思います。



篠本 圭司
(玉造乙)

「辺鄙」ずばり当てはまる言葉だ。鉄道、映画館、スポーツクラブ、専門的な教育機関、市内全域を網羅する光ファイバー、ボーリング場、ファミレス、大型の書店やレンタル

ショップ、マンガ喫茶、etc.: ない物だらけだ。仕方なく市外へ出なければいけないことがあまりにも多い。しかし、自然は豊かだ。農産物は美味しい。けど、活用できていない。辺鄙を逆手にとってどうにかできないものだろうか？

しめるべき戦略と人材がないからではないか。自然が豊かなら、その自然以上に心身が豊かな人材がいてもおかしくはない。市には埋もれている多くの優秀な人材を育成し、活用してもらいたい。知識や見識を持ち合わせているのは言つまでもないが、特に心豊かでやさしく清廉な人材を求められる。

編集後記



行方市合併後、今4月より24人体制の本格的な議会活動が始まりました。定数削減を含めて本格的な市議会議員としてのあり方と自覚の基、全員はりきつてい

る人達ばかりであります。

6月より税制改革が行われました。真の地方自治の自立、確立のため、国の三位一体における税源移譲によるものです。直接、納付する市民の視線が今まで以上に、より行政に対して反映される、そんな時代になったのです。したがって住民監視下における、住民本位の行政が今更以上で以上にそこに求められ、実行されなければなりません。

そのための議員活動であり、地域を代表する声でありたいと思っております。

議員活動をより知っていただき、そのための議会広報に努めたいと広報委員会一同頑張りたいと思っております。

市民の皆様、議会傍聴に是非ご参加ください。
(高木 正)

広報委員会

- | | |
|------|-------|
| 委員長 | 宮内 正 |
| 副委員長 | 高木 正 |
| 委員 | 松兼 幸蔵 |
| | 岡田 晴雄 |
| | 高橋 正信 |
| | 横田 太一 |